



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方中学校 学校だより

# 青雲の大志

令和6年11月8日

NO.65 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成

## 個々が輝いてこそ生まれる 一体感

◇文化祭では、準備期間中に他学年と一つの作業を協力して行うことができたので、良かったです。今年は準備期間が例年より少なく、ステージ画の作り方も、係のほとんどの人が知らなかったもので、とても焦りました。台紙を作るところから、台紙に印刷したイラストを貼るところまで、全ての作業がとても大変で、文化祭当日まで間に合うか不安でした。ですが、係の人と協力し合い、今年のテーマにあるように一体感をもって、なんとか創り上げることができました。普段の学校生活では味わうことができない達成感を得ることができました。作業中も、「こうすれば、もっと効率よくなる」など、沢山のことを話し合ったりして絆を深めることが出来ました。思い出に残る、いい文化祭になったと思います。(9年 工藤 鈴さん)



◇今年の文化祭の活動で印象に残っているのはやはり劇の役者です。練習期間がとても短くて、ほとんどの人がセリフを覚えられず、動きも全くないまま、新聞に「あと5日」と出たときは、正直「ムリだ」と思いました。ですが、劇を成功させようとしてくれている他の係の人たちや先生方に応援されるようギアを上げて頑張りました。当日はミスもありましたが、よくできていたと思います。改めて劇をつくりあげる楽しさや苦勞を感じ、いい思い出をつくることができました。

また、全校合唱も印象深かったです。今年は難しい曲を選んだので、全パートとも苦戦を強いられ、ピアノも安定するのに時間がかかりました。文化祭1週間前は「どうしたものか」と頭を抱えていましたが、本番の週になると、羽田先生の一言でぐんとよくなりました。歌がよく聞こえるようになったので、ピアノも安心して弾くことができるようになり、日に日に上達していくことができました。

劇や合唱を通して緒方中の全校が協力したときの力を感じました。最後の文化祭がとても良いものになってよかったです。(9年 嘉藤 花さん)

◇僕は、この文化祭でいろいろ成長したことがあります。僕は今回、小道具の仕事につきました。小道具の仕事は劇で使う小さいアイテムを作ることでした。最初は、こんなものまで作るのかなと、何度も思いましたが、実は、劇でものすごく大切なアイテムだということが分かりました。小道具係になっていろんなことに気が付きました。この仕事で学んだことは、どんなに小さく、目立たないと思っても一生懸命にすることはとても大切だということです。僕は、たまに、こんなものやなくていい、と思ってしまうことがあるけれど、これからはどんなことでも全力でします。(8年 児玉 湊士さん)

◇僕は、初めての文化祭で準備の仕方などがよく分からなかったけど、同じ新聞係の人達と協力して新聞を書くことができました。新聞係はあまり目立つような係ではないけれど、みんなが文化祭を楽しめるように、みんなの意気込みや進み具合などを新聞に書きました。みんなが助け合って最高の新聞を作ることができたので、よかったです。

学年発表では、本番しっかり発表できるように何回も練習しました。練習を重ねることで、自分のセリフを覚えていき、最後の方は、台本を見なくても発表できるようになりました。本番も緊張はしたけれど、しっかり発表することができてよかったです。

合唱は、最初はうまく歌うことができなかったけれど、家で何回も練習したら歌詞をしっかりと覚えることができたし、リズムや音程をとることもできました。今年の文化祭で学んだことをしっかりと来年の文化祭に生かそうと思います。(7年 田多 隆樹さん)



実行委員長 秋澤佑希さん

